



広報

# なま

市民の友

第640号 毎月1回発行  
2004年(平成16年)

5月

発行 那覇市 編集 秘書広報課  
〒900-8585 那覇市泉崎1丁目1番1号  
867-0111 印刷 光文堂印刷機

市の人口と世帯	
( 別表5の外国人を除く )	
2004年(平成16年)3月末現在	
総人口	311,012(1,966)
男	150,478(1,007)
女	160,534(959)
世帯数	123,145(1,238)
住民基本台帳人口の内外(外国人を除く)	
本庁	89,141
真和志	105,552
首里	58,961
小祿	55,392



## 那覇に新しいキャラクター誕生

ベロタクシー稼動!

那覇に新しいキャラクター(個性)が走りだしました。ドイツ生まれのおしゃれな自転車タクシー「ベロタクシー」が5月1日から国際通り周辺市街地を走行します。「ベロタクシー」の「ベロ」は、ラテン語で自転車のこと。

環境先進国ドイツで、二酸化炭素を排出しない交通手段として、10年前前からベルリン市内を走っています。

走行速度11キロの、たまご型でかわいい「ベロ」に、道行く人は「がんばって!」と声をかけてくれます。街の人に手を振りながらゆっくりと風景を眺めて移動ができ、ちょっとした遊園地気分も味わうことができます。

「スローライフ」(ゆったり生きる)の沖縄ですが、そこに住む私たちは、日常環境が及ぼすストレスを、知らず知らずにかけています。慢性的な渋滞による排ガス日中の強い日差しが蓄積されたコンクリートとアスファルトに覆われる市街地。それは、温暖化のいちばんの原因であり、地球環境が危険にさらされているのです。

今、私たちに必要な環境に配慮した、ゆとりある生活の実践のひとつとして、「ベロタクシー」を利用して、いかがでしょうか。

主な紙面	
市民のみなさまの	2
「ごみ減量に感謝します」	2
那覇市の水とごからくる	3
日米地位協定って	3
ナンのコト!?	4
市立病院に新機種登場	5
情報PACK	6
	7

## 市長談 2人談 TAIDAN 13



さくら 佐々倉 玲於

地域活性化協力隊  
・Ve love Okinawa 代表  
高知県出身。琉大農学部生産環境学科卒業。むらづくり・まちづくりに関わりながら生きて、生きて、いきたいと、00年学生主体のNPO「地域活性化協力隊」を立ち上げ、那覇を中心にワークショップの企画・運営、イベント開催などまちづくりに関する事業を開発。

翁長雄志市長 佐々倉さんと初めて会ったのは、3年前の「ちれーちれーチャンネル祭り」ですね。那覇の街づくりに協力してもらいうれしく思います。その苦労があなたの血や肉となって、3年前より自信がいたように見えます。

佐々倉玲於さん ありがとうございます。これからも街づくりに関わりたいと思っています。大学で「街づくり」の勉強をし、実際の街づくりの様子や地域の声とのギャップを感じ、最近では、牧志第二公設市場跡地を利用して、フリーマーケットを開催しています。目的は、それをきっかけに市場に足を運ぶ人を増やすことです。

市長 私のネクタイモタンスに覆っているので、1本50円くらいで出してみませんか。佐々倉さん、お願いします。ほかには、先日、久茂地公民館で、地域活性化のワークショップ(研究集会)を開催しました。久茂地には自治会がなく、防犯などの問題や様々な課題を解決するには地域の連携が必要ですね。参加者は自分たちで活動しなければという意識を持った方ばかりでした。

市長 何をしても良いから分らないけど、何かをやらなければという思いは、あるのですかね。佐々倉さん、そうです。各々皆さんの課題を持っていて、それを整理していく人が必要だと思います。

## もっとコミュニケーションを

市長 全国的に行政は財政が厳しく、地域の力を借りた市政運営が必要になっています。そのため、市役所が市民から信頼されるよう頑張っています。例えば、公園の維持・管理に市では年間1億円かかっています。それを地域の住民が草を刈ったり、掃除をしてくれたり、市からは掃除道具や花の苗木を提供することで、半分以上の予算に節約することができます。

佐々倉 地域の方を動かすには、「コミュニケーション」が必要だと思います。「お前やれよ!」なんて、言われたら、嫌な感じがする。しかし、普段からコミュニケーションが取れていれば、話し合いによって自発的に活動ができると思います。基本的なことなんですよね。

